



第1回在宅医療シンポジウム

2024/3/20

在宅ケアの平時を考える
-令和6年能登半島地震の現場から-
ごちゃまるクリニック院長 小浦友行

自己紹介

- 小浦友行 ごちゃまるクリニック 院長
- 石川県 輪島市 **朝市通り出身**

【略歴】

2005：富山医科薬科大学卒業
2007：富山大学附属病院 総合診療部
2012：富山大学附属病院 災害・救命センター
2014：富山大学医学部 富山プライマリ・ケア講座
2017：公立穴水総合病院 臨床研修センター
2021：奥能登ごちゃまるクリニック
2022：ごちゃまるクリニック

【資格】

日本プライマリ・ケア連合学会 認定指導医
日本専門医機構 総合診療医
日本内科学会 総合内科専門医
日本内科学会 JMECCインストラクター
日本医師会 認定産業医
石川県認知症サポート医

独立開業 1 年程の 新人院長

ごちやまるクリニック

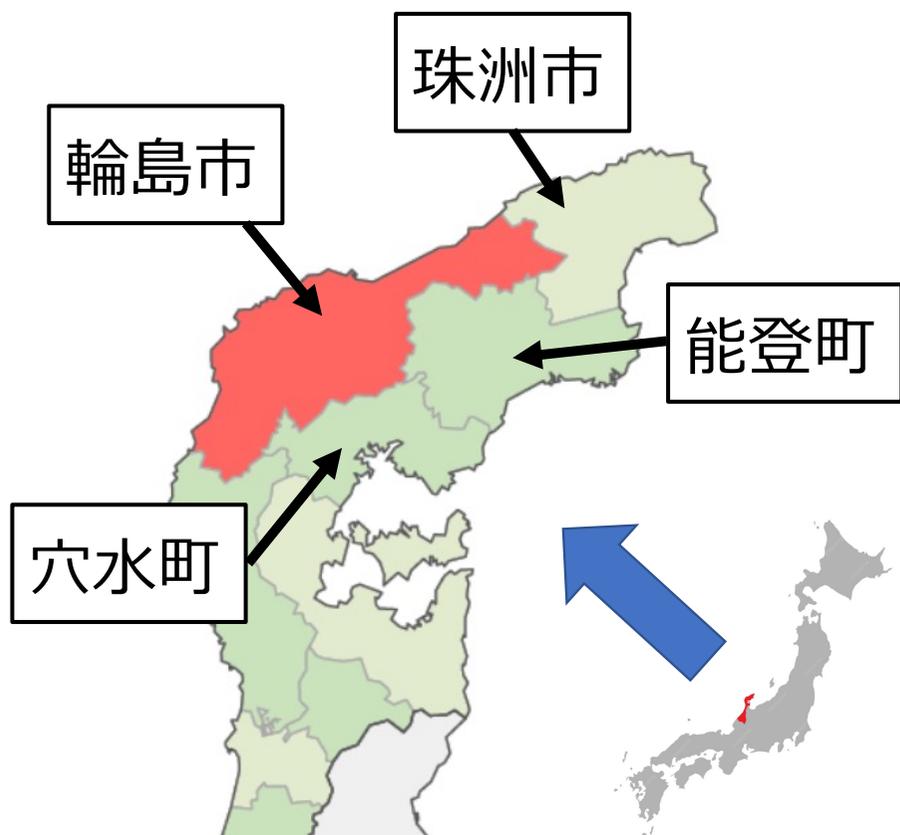
Patient-Centered Medical Home : PCMH

日老医誌 2017;54:499-506

- 外来ケア：妊産婦、乳児～高齢者
- 地域ケア：社会的処方箋活動
- 在宅ケア：訪問診療（在支診）、訪問看護、訪問リハ



能登北部、輪島市について



	人口	高齢化率	年少人口
輪島市	24,032	47.0	1,551
珠洲市	12,801	52.2	936
能登町	15,337	51.3	1,154
穴水町	7,670	50.6	553

(R2.10.1)

輪島市面積：426.3km² (県内3位)

公立病院数：1 (市立輪島病院)

診療所数：26 (うち公立6、在支診2)

訪問看護事業所数：4 (うちステーション2)

高い高齢化率の広いエリアを、少ない在宅資源で担っている

世界農業遺産 「能登の里山里海」



春



夏



優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる棚田や「間垣」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどが広がっています。

伝えたい伝統的な技術

日本で能登に唯一残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、「輪島塗」といった伝統工芸、「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。



世界農業遺産
「能登の里山里海」
それは
能登の暮らしそのもの。

伝統的な農林漁法と土地利用

稲のはざ干し(天日干し)や海女漁などの伝統的な農林漁法が継承されています。また、干を超える「ため池」が点在し、傾斜地には多くの棚田が見られます。



里山里海の利用保全活動

棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、行政と大学が連携した人材育成などが進められています。



文化・祭礼

ユネスコ無形文化遺産に登録された「あえのこと」をはじめ、農林水産業と結び付いた文化・祭礼が伝承されています。

多様な生物資源

希少種を含むたくさんの生きものが生息・生育しています。また、「能登野菜」などの在来品種の栽培の振興がはかられています。



冬



秋



農林水産省HPより

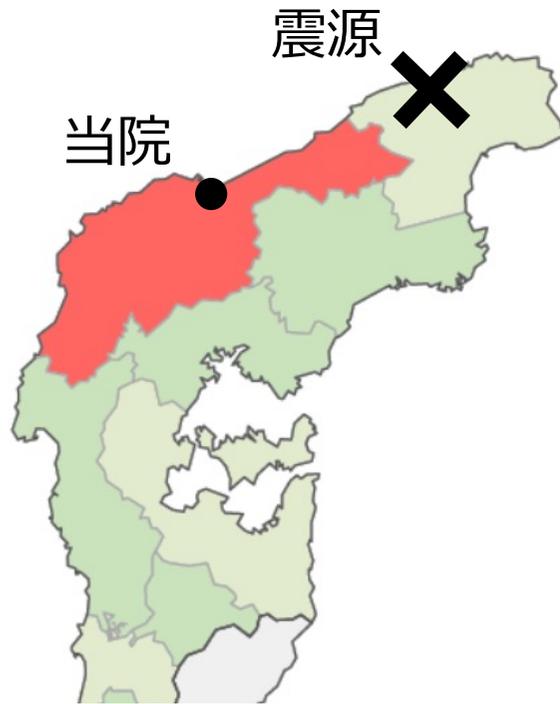
本日の内容

- 令和6年能登半島地震を経験し、
2つの事例の平時と有事を解説することで、
平時の在宅ケアにおける要点を考察する

Key Word

在宅ケア（Home Care）、ACCCC
災害医療、受援力

令和6年能登半島地震



焼け野原の輪島本町朝市通り



全壊家屋の横を通学



近年の地震と能登群発地震

1995.1	阪神淡路大震災	M7.3
2007.3	能登半島地震	M6.9
2011.3	東日本大震災	M9.1
2016.4	熊本地震	M7.3
2023.5	奥能登地震	M6.5
2024.1	R6能登半島地震	M7.6

時刻：1月1日16時10分

規模：M7.6

死者：241名（災害関連死15名）

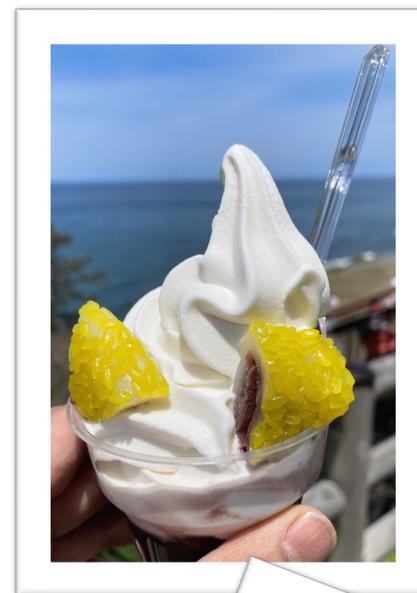
頻回
かつ
甚大

事例 1

有事の備えを通じた
信頼ある地域連携の涵養

背景

- 60歳男性 町野町在住
妻、母、娘と3人暮らし+ねこ
- 多系統萎縮症で人工呼吸器管理
訪問診療・看護・リハ
- 夫婦でスイーツ食べ歩き
2023年に娘さんの結婚式に参加



平時の取り組み

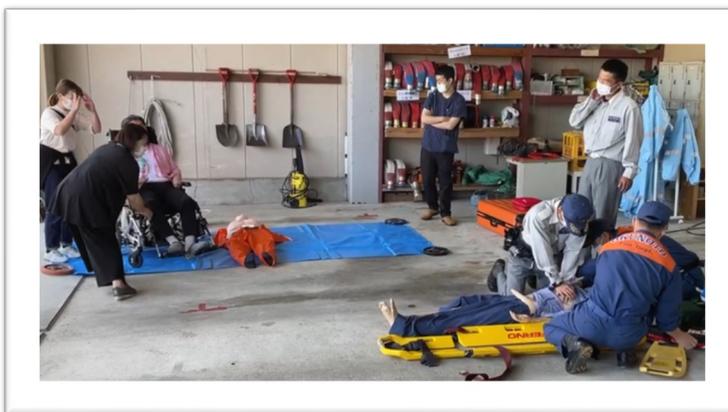
「ここは地震が多いから」

令和5年奥能登地震を契機に有事対応を強化

地元消防と奥様とでBLS講習

能登北部保健所とカンファ

外部バッテリー準備



現在とこれから

「必ず能登に戻ります」

療養病院に転院して療養生活へ
ご家族は金沢で避難生活中
オンライン診療でご家族と関わりは継続
今後は能登の新居で在宅ケア再開を検討中



nikkei.com

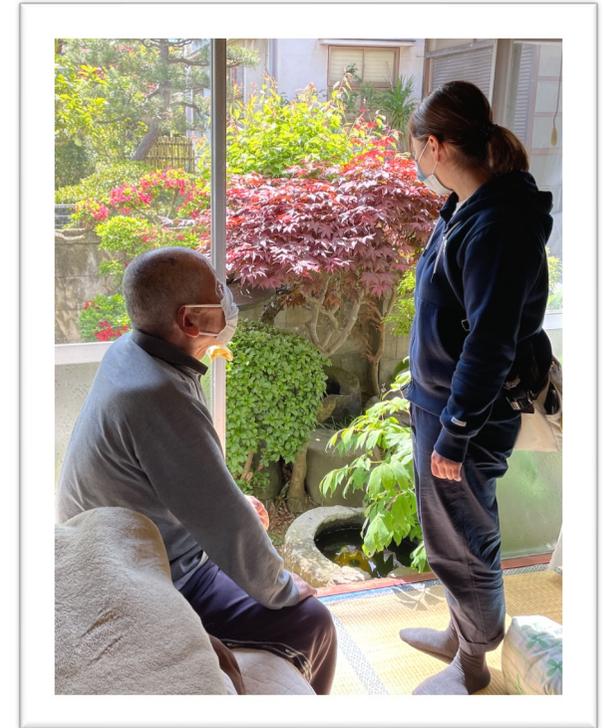
かかりつけ医、避難先でも 能登でオンライン診療

事例 2

文脈性を大切にした
継続的な関わり

背景

- 86歳男性 河井町在住
妻と二人暮らし
四季折々の庭を眺めるのが好き
- 2022年大腸癌とetiology不明の肺腫瘍
「悪いことの確認の検査はせんでええ」
原因精査や化学療法は希望せず
「本人の尊厳は尊重したいが、それでよいのか…」
悩む娘さんの紹介で在宅ケア開始
- 2023年呼吸不全増悪し在宅酸素療法



平時の取り組み

「先生、愛やぞ、愛」

妻と小競りあいしつつも深い愛情がある
ご本人の人となりを知る訪問
医師と患者という関係を超える
看護師にとっても大切な人
いつも最後はヤクルトで乾杯



有事の状況

- 発災直後に娘夫婦の助けで避難所へ
- 酸素残量少なく地域病院へ搬送
- さらに二次避難で金沢の病院へ

「先生、もうダメかもしれん」

転院後、徐々に呼吸状態が悪化
妻からの電話になすすべもない



転機は看護師の言葉

「もう一度みんなで過ごすことはできます」

娘さんの外来受診日

落ち込む娘さんに看護師より提案

「それって願ってもいいんですね！」

早速退院支援を開始

2日後に金沢の娘宅へ退院

地元の訪問診療・看護に引き継ぎ



現在とこれから

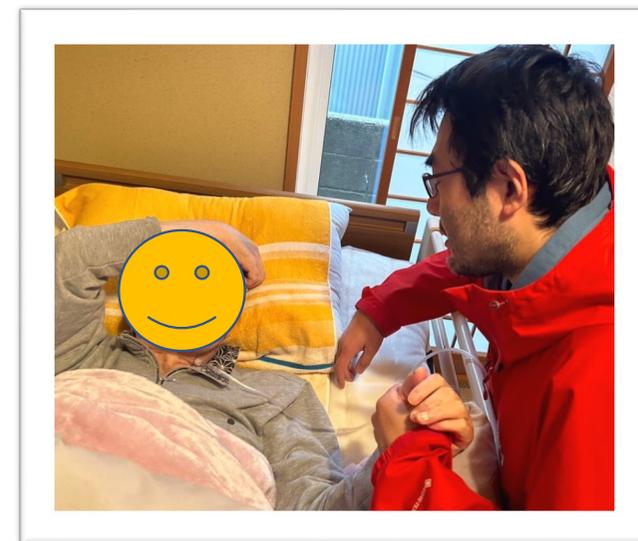
「先生大変やったな、ありがとう」

退院後は呼吸状態が改善

節分の日にお宅を訪問

震災後 **最もうれしい一日**

今後オンライン診療を検討



プライマリ・ケアのACCCC

在宅ケアの要点はプライマリ・ケアのACCCCと同じである

Access to Care	近接性
Continuity of Care	継続性
Comprehensive Care	包括性
Coordination of Care	協働性
Contextual Care	文脈性

Saultz JW:Textbook of family medicine, McGraw-Hill, 2001

身近に末長く、丸ごとみんなで、あなたらしくを応援

受援力とは

有事への備えとして平時より行う受援力の向上

- 複雑困難事例を通じた地域連携の涵養
- 不測の事態でのPDCAサイクル

平時での不測の事態から有事を妄想し受援力を高める

平時からの地道な活動こそが受援力を高め、ひいては大規模災害の備えになる



共に
頑張り
ましょう!
ラポパロ

かかりつけをあきらめない

全てのご支援に心より感謝申し上げます



能登半島最先端